# 言葉の力

鳥取市立桜ヶ丘中学校　３年　稲村　雫

私には，忘れられない言葉があります。友達に言われたその言葉は，時間がたった今でも，私の心から離れません。消そうとすればするほど，あの時の苦しかった思い出とともによみがえってきます。

はじめは，避けられているように感じる程度でしたが，そのうち，面と向かって言葉のナイフで傷つけられるようになりました。体に受けた傷は目に見えるけど，心の傷は見えません。殴ったり蹴ったりだけが暴力ではないのだと，思い知りました。

はじめのうちは，こんな理不尽なことに負けてたまるかと思っていました。味方になってくれる友達はいましたが，自分はいじめられているのだと実感すると，だんだんと自分が悪いのではないかと思うようになりました。いじめられるのは自分のせい…。そんな風に思い始めた頃から，朝起きるとめまいや立ちくらみを感じるようになりました。限界だった私の心が，体にＳＯＳを出したのだと思います。

正直，「死んでしまいたい」と思ったこともありました。戦争で命を落とす人や，病気と必死で闘っている人，生きたいと思っているのに生きられない人がいる中，自分で死を選んではいけないと大人は言うけれど，そんなのきれいごとに聞こえました。そのくらい苦しかったのです。

進級して新しい環境になったこともあり，ずいぶん明るい気持ちで学校生活を送ることができるようになりました。でも，私はあの時言われた言葉を忘れてはいないし，今でもまたあの時みたいに，いじめられたらどうしようと不安でたまらなくなることもあります。

そんな私を救ってくれたのが，今年の夏偶然テレビで見た「こども六法」という本でした。私と同じように，小学生のころいじめにあっていた大学生が書いた本で

す。刑法や民法など難しい法律がたくさん載った六法全書を，小中学生にもわかりやすいよう，易しい言葉で書き換えたものです。「こども六法」には，「いじめは犯罪だ」と書かれていました。人を殴ったり蹴ったりすることはもちろん，お金や持ち物を奪ったり，ＳＮＳにひどい悪口を書いたりしたら，大人の世界だと警察に逮捕されて罰を受けます。中学生が大人と同じ法律で裁かれることはありませんが，「いじめは犯罪」という言葉は，私に大きな勇気をくれました。いじめを受けた原因が自分にもあるのではないかと思い，ずっと不安だった心に，「あなたは悪くない」と言ってもらえたようでした。

「こども六法」には，正しいことは正しいと堂々と書いてありました。悪意をもって人を傷つけたら罰を受けるのだと，当たり前のように書いてありました。「こども六法」の中の言葉に私は救われたのです。思えば，私の心を深く傷つけたのも，友達が放った心ない言葉でした。しかし，私に勇気をくれたのもまた，「こども六法」の中の言葉だったのです。

言葉は大きな力を持っています。人を「死にたい」と思うまで追い込むこともできれば，そこから救い上げることもできます。だからこそ，人の権利を考える上で，言葉は大切にしなければいけないと思います。物や身体を傷つけることはもちろん許せませんが，言葉は心を深く傷つける武器になるのだということをもっとみんなに知ってほしいです。

そして私自身，勇気ある言葉でたくさんの人を救えるような人間になりたいと思っています。今，いじめで苦しんでいる人，心ない言葉によって深く傷ついている人，「あなたは悪くない。」世の中には，私たちを励ましてくれる言葉や，そんな言葉を掛けてくれる人が必ずいます。だから，誰かを傷つけるための汚い言葉なんかに負けないで。私も，私を勇気づけてくれる言葉を信じ，前を向いて生きていきたいと思います。